

年内収穫に適した極早生エンバク「スナイパー」

「スナイパー」は生育が早く多収な極早生品種であり自給飼料増産が可能

背景・目的

- ・ 県内のエンバクの作付面積は約1,441haであり秋冬飼料作物ではイタリアンライグラスに次ぐ作付面積
- ・ エンバクは、晩夏、秋、春播きいずれの作型でも栽培が可能であり、用途や利用方法に合わせて栽培体系を組み合わせることで自給飼料の増産を期待
- ・ 近年、耐倒伏性や収量性に優れた品種が育成されており、本県に適した品種の選定が必要

成果の内容

「スナイパー」の特徴

県奨励品種「隼」と比較すると

- ・ 乾物収量が121%と多収
- ・ 耐倒伏性に優れる
- ・ 出穂始が早く安定して年内収穫が見込める

栽培体系例

	9月			10月			11月			12月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
スナイパー	○	○	○			★						▲
隼	○	○	○				★					▲

○：播種 ◎：播種適期 ★：出穂始 ▲：収穫

栽培特性（R2～4年度，3か年平均）

品種	発芽良否 ¹⁾	初期生育 ¹⁾	刈取時出穂程度 ¹⁾	草丈(cm)	病虫害程度 ¹⁾	倒伏程度 ¹⁾	生草収量(kg/10a)	乾物収量(kg/10a)	穂重割合(%)	乾物収量の対標準(%)
スナイパー	8.0	7.8	8.3	136 ^b	1.0	1.8 ^b	4,950	1,025 ^a	24	121
隼(標・県)	8.0	7.7	7.6	146 ^a	1.0	4.3 ^a	4,273	849 ^b	19	—

注1) 発芽良否・初期生育: 1(極不良)~9(極良), 出穂程度: 1(無, 極少)~9(極多), 病虫害程度・倒伏程度: 1(無, 極微)~9(甚)

2) ab異符号間に有意差あり(Tukey法, P<0.05)

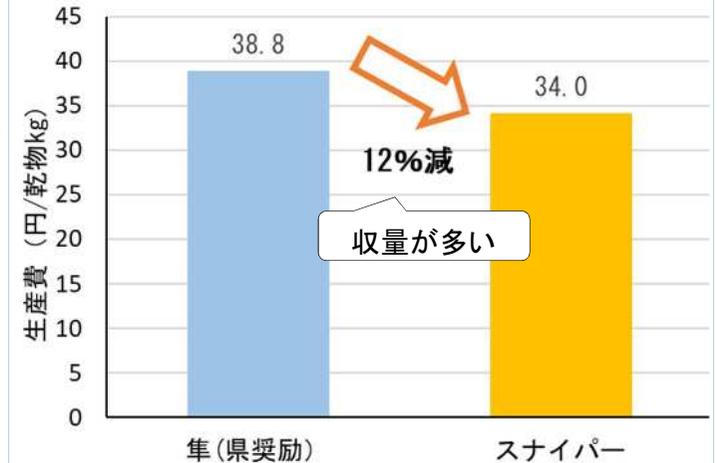


「スナイパー」草姿

期待される効果

「スナイパー」の生産費

多収による生産コストの低減



○普及対象・範囲

県内の肉用牛農家，乳用牛農家

鹿児島県農業開発総合センター畜産試験場
企画環境飼料部草地飼料研究室
日本草地畜産種子協会

(飼料作物等高能力新品種選定調査事業) (R05)